

【解 答】

腎癌胃転移

解説：

本症例では、腎細胞癌手術後の他臓器転移巣検索目的に行った上部消化管内視鏡検査で、20mm大のSELが認められた。病変は、隆起の中心に辺縁不整な陥凹をとめない、大きさに比して丈はやや低く、送脱気では変形に乏しく硬さを有していた。狭帯域光 narrow band imaging (NBI) 併用拡大内視鏡観察では、陥凹面の表面微細構造はほぼ無構造で、微小血管は認識不能であった。20MHzのミニチュアプローブを用いた内視鏡超音波検査 endoscopic ultrasonography (EUS) では、胃壁は5層に描出され、病変の主座は第2層に位置していた (Figure 2)。生検の結果、組織像および腫瘍細胞が paired box 8 (PAX8) 陽性であることから腎癌胃転移と診断した。その後、Pembrolizumab + Axitinib 5mgの化学療法を開始し、病変は7mm大まで縮小した (Figure 3)。内視鏡検査およびEUS所見を踏まえ、胃転移巣は内視鏡切除可能であると判断し、endoscopic mucosal resection using a ligating device

(EMRL) による病変の一括切除を行った (Figure 4, 5)。組織学的には、粘膜下層を主座とし、淡明な細胞質と核形不整を示す、類円形核を持った異型細胞が毛細血管網をともなって充実性胞巣を形成し、一部粘膜に浸潤する境界明瞭な3mm大の腫瘍が認められた (Figure 6a, b)。免疫組織化学では、腫瘍細胞はPAX8陽性であった (Figure 6c)。3カ月後の内視鏡検査では同様の5mm大の病変が新たに3病変認められ、生検により腎癌多発胃転移と診断された。追加治療法として、胃全摘と化学療法の変更を提示したが、現在はPembrolizumab + Axitinib 10mgのみで経過観察を行っている。

腎細胞癌の転移は、主に肺、肝臓、骨、脳に認められ、消化管転移は比較的まれとされる。転移性胃癌は、担癌患者の2.3~5.9%に見られるという報告があり¹⁾、内視鏡所見としては、約34%がSEL様、約63%が原発性胃癌類似の形態を示す²⁾。SEL様の転移性胃癌のうち70~80%には中心陥凹があり、多くは不整形である³⁾。腎癌胃転移の報告例は少ないが、転移巣切除は、生存期間を延長し、完全切除が予後良好な因子である⁴⁾。初期治療として免疫チェックポイント阻害剤、血管新生阻害薬を併用する化学療法が行われる。転移巣切除術は、特に転移が限られている患者や全身治療へ

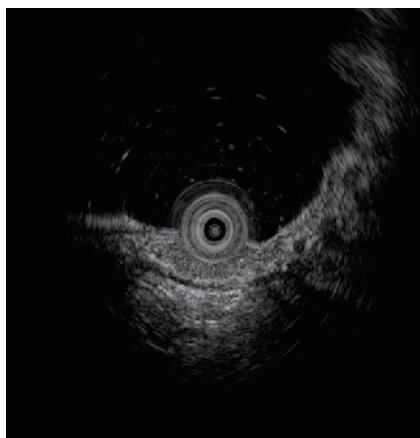


Figure 2. 内視鏡超音波検査 20MHz. 病変の主座は第2層に位置していた。

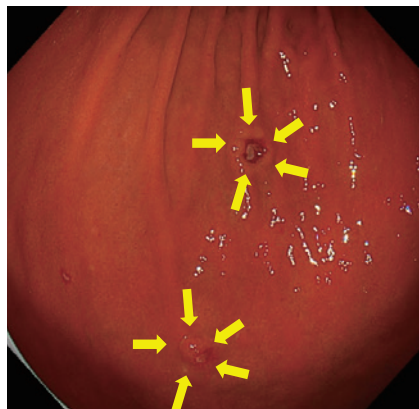


Figure 3. 治療時上部消化管内視鏡検査。原病変は縮小していたが、新たな病変が認められた。

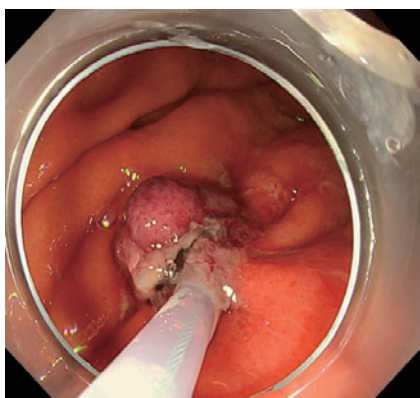


Figure 4. EMRL にて一括切除.

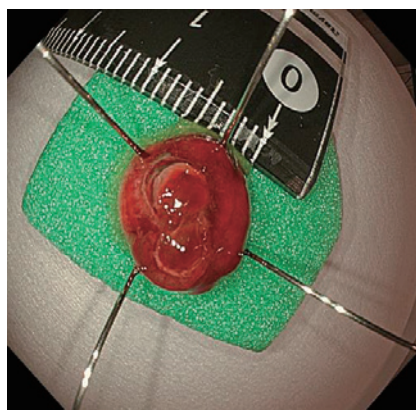


Figure 5. 切除検体.

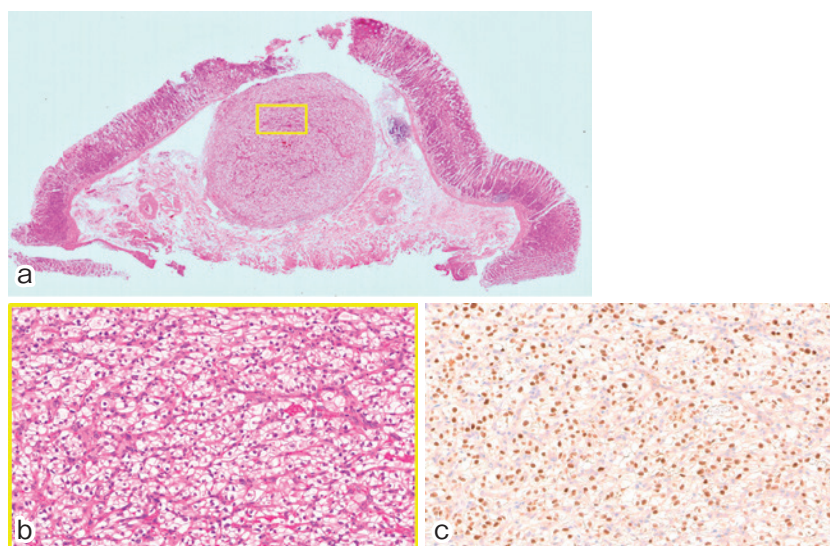


Figure 6. 病理組織像 a) HE 染色ルーペ像. 粘膜下層を主座とし一部粘膜にかけて位置する比較的境界明瞭な 3mm 大の結節性病変. b) a の黄色枠の拡大像. 淡明な細胞質と核形不整を示す類円形核を持つ異型細胞が, 毛細血管網をともなって充実性胞巣を形成し増殖する腫瘍. c) PAX8 免疫組織化学陽性.

の治療反応性が良好な患者において, 長期的な無病生存を目指して施行される. 現時点で腎癌診療ガイドラインに胃転移に関する明確な記載はない⁵⁾.

本論文内容に関連する著者の利益相反
: なし

文 献

- 1) 原岡誠司, 岩下明德, 中山吉福: 病理から見た消化管転移性腫瘍. 胃と腸 38;1755-1772:2003
- 2) 荒尾真道, 高田 淳, 井深貴士, 他: 転移性胃腫瘍の画像診断・形態学的特徴—乳癌胃転移を中心に. 胃と腸 57;1007-1017:2022
- 3) 濱中久尚, 小田一郎, 後藤田卓志, 他: 転移性胃腫瘍の形態的特徴—内視鏡像を中心に. 胃と腸 38;1785-1789:2003

- 4) Alt AL, Boorjian SA, Lohse CM, et al: Survival after complete surgical resection of multiple metastases from renal cell carcinoma. Cancer 117; 2873-2882: 2011
 - 5) 腎癌診療ガイドライン, 2017年版, 日本泌尿器科
-

学会編, メディカルレビュー社, 2017

(論文受領, 2025年4月17日)
 受理, 2025年4月17日)